

年6月18日第3種郵便物認可  
 毎月1回1日発行  
 定価1部15円  
 印刷所 田辺印刷株式会社  
 上田市原町 TEL (2) 1492・2566

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
 発行所 社団法人千曲会  
 長野県上田市入信州大学繊維学部内  
 振替 長野 6243・東京 43341  
 電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

## グラフト高分子の構造と物性

東京工業大学 宮坂 啓象 (学紡5)

最近高分子物質が非常に数多く開発されておりますが、一方では工業技術の進歩によって使用目的の複雑化、多様化がますます進んでおります。このために従来用いられてきた高分子材料になんとか手を加えて目的に沿ったものを得ようという要求が強くなっております。

このような要求を充すための研究の方向としては、大ざっぱには次の三つがあります。

- (i) 共重合などによって分子構造に手を付ける方法
- (ii)  $\text{NaH}$  以後の立体規則性重合にみられる高分子の凝集特性を変える方法
- (iii) 架橋処理などに代表されるいわゆる后処理の方法

これらは各々その特徴と有用性をもち又、その限界があります。このような方向がなぜ高分子材料の改質のために有効であるかということは、現在全く常識化されているわけですが、振り返ってみますとこれ自身が数多くの高分子研究の貴重な成果でもあることに驚きます。話が多少本筋から外れるかも知れませんが、この点をもうすこし考えてみることにします。

高分子材料のもつ性質は他の一般低分子と同じようにそれを構成する分子の構造に多くを依存することはいうまでもありません。セルロース系繊維の吸水性はセルロース分子のもつOH基によるものであることは常識であります。

一方、我々は全く同じ分子構造をもつ木綿とレーヨンを水に漬けたときに後者は非常に弱くなるのに前者はむしろ強くなるということを知っております。これは高分子材料の性質が単に分子構造だけでは決まらないということを示す一つの例でありこのようなことは枚挙にいとまがありません。

この結果、高分子材料の性質を決めるもう一つの重要な因子として、高分子がどのように集まって材料を形成するかという問題、すなわち高分子の凝集特性が浮び上がってくるわけであり、これは具体的には結晶と非晶の問題などになりますが、ここでは分子構造(一次構造)に対立させる意味で二次構造と呼ぶことにします。

上に上げました三つの方向は、この二つの構造の一つ又は二つを変えるためのものであることとなります。

本論に戻りましてここで問題にしておりますグラフト重合又はグラフト高分子はこの分類では本質的には(i)に属するものでありますが、実用的有用性をもつものは(iii)の範疇に入るものであります。

ここでグラフト高分子の定義を述べてみましょう。グラフト高分子はAという高分子にBという高分子があたかも枝分れたように結合しているものを言います。グラフト(graft)とは元来“枝”つぎ木の意味であり、グラフト高分子の命名の由来もそこにあります。このように言いますとイメージは簡単に画けるわけですが、AとBが同じか違うか、BがAの

どこに結合しているかなどの問題があり厳密にグラフト高分子を定義することは難しくなりますが、大ざっぱにはこのようなものであります。

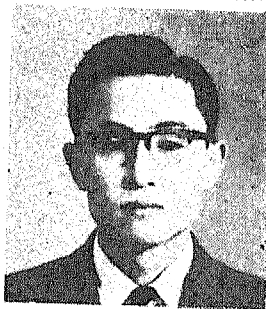
次にこのようなグラフト高分子がどのようにして作られるかということですが、これは先づAという高分子を先に作っておいて(天然に存在するものを含めて)Bの単量体と混ぜてBを重合してやります。このときにBの一端はAのどこかに結合したかたちになります。放射線や塩などの特殊な触媒を用いることもありますし、Bだけを単独で重合するとき用いるふつうの触媒の場合もあります。

さて先ほどグラフト重合が本質的には分子構造を変えるという方法に分類されるが、実際には(iii)に帰属される場合が多いということと言いましたがこれは今申しました重合法と密接に関連しております。Aという高分子がグラフト重合の際にどのような状態で存在するか、又重合後どのように処理するかと関連します。実際的にはAは繊維やフィルムなどの固形の状態でグラフト重合が行なわれ、重合後にBの溶剤による抽出を行なって重合によって生成したBの中でAに結合していないB(グラフト重合していない)を取り除きます。残った繊維やフィルムをグラフト重合物と呼びます。これでわかりますように、グラフト重合はAがどのような固体構造をとっているかによって当然影響を受けるはづであります。Aが結晶性であればグラフト重合によって結晶の破壊が起きない限りは、グラフト重合に関与する部分は非晶域に限られることはなり当然反応は不均一になるはづであります。又グラフトしていないBの抽出もかなり不完全であることは明らかであります。

したがってこのようにして得られるグラフト重合物は、A、BおよびA-Bのグラフト高分子の三つが混り合ったものであり本当の意味でのグラフト高分子とはいえないものであります。

私が行いました仕事の一つは、このような場合について、Aの二次構造がグラフト重合においてどのような意味をもち又、グラフト重合によってどのように変化するかという問題の検討であります。低数の都合上詳細に申し上げることはできませんが大ざっぱには次のようになります。

グラフト重合触媒としてセリウム塩を使ってセルロースにビニル系の高分子をグラフト重合させる場合にセルロースの二次構造とくに非常に凝集オーダーの低い領域での相異が、グラフト重合の効率、グラフト量、などに顕著な影響を与える。一方グラフト重合によるセルロースの二次構造の変化は非常に少い。影響を与えることは自ら受ける変化が小さいことであり、この二つは同じことを言っていることとなります。X線、赤外線などの構造化学的手段のほか、グラフト重合中の応力緩和挙動などからこの結論を引き出すわけですがさらにグラフト重合物の動力学的な検討の結果からこのグラ



フト重合物中での各成分の凝集状態を推定しますと、各成分の局所的な相分離はかなり進んでいると考えられます。又グラフト重合によるセルロースの吸水性の変化はセルロースのみに注目すれば、低湿度域ではむしろ高くなっていると考えられます。

一方このような不均一な混合系であるグラフト重合物に対し、かなりの程度、純粋に近いグラフト高分子固体と呼びうるものがあります。これは前者の場合と異なりグラフト重合時にAを固体状態でなくできるだけ分散した溶液状にしてグラフト重合反応が均一に起きるようにして、さらに重合後の抽出を厳密にすればよいわけです。(AもBも抽出する)このようにしてやりますと、グラフト高分子のみをとり出すことができます。私が行いましたもう一方の仕事は、このようなものについて、その凝集特性や物性を検討しグラフト高分子のもつ二次構造上の特異性や、それと物性との相関を検討することです。系はPVA-PVCの系であります。

PVAは高い結晶性をもつものでありますが、この結晶性とPVCの枝の数やグラフト率等の相関をX線によって検討

し、ある程度明らかにすることができました。又グラフト高分子の膨潤の理論式の誘導を試みこれを用いてこの系でのPVAの凝集状態の推定を行ないました。又このグラフト高分子の転移点の解明に関連してPVAの120°C附近の転移が、PVA結晶の熱膨張係数の不連続点に対応することを明らかにすることができました。

以上全く研究の概略だけしか書けませんでした、私としてはある程度意識して常識的なことを最初長く書きました。その理由は本誌はその性質上ディスカッションの場ではないと考えたからであります。

最近私の仕事のなかで多少興味があると考えられます問題を書かせて頂きますと、親水性高分子結晶の水による変形(結晶内での水の吸着)の問題、高分子結晶の応力による転移の問題などがあります。同窓生の皆様の中でこのような問題に興味をお感じになる方がございましたら御教示・御討議をお願い申し上げます。なおグラフトの仕事をしておりましたときに同窓生の小林様(東洋化学KK)に大変お世話になり心から感謝致しております。(筆者は工学博士)

## 小麦の障害型冷害に関する研究

長野県農業試験場 農学博士 戸 田 正 行

この度長野県農業試験場勤務、戸田正行技師(織農1回卒)は標題の下に九州大学農学部教授会において、去る12月末めでたく学位論文がパスされました。本研究は冬作物における一新気象障害を発見し、その機構を解明したもので学会において注目をひいている。当試験場では新制学位を受けられた第1人者であり、長年に亘る氏の努力と功績は既に斯界に認められていた。本論文は日本作物学会に発表しつつある“小麦の冷害に関する研究”の第9報までのうち第7報までまとめたものである。

ここにその概要を紹介する次第である。(田中記)

本県の上水内郡戸隠地方では、ほとんど毎年小麦の総りが悪く、年によっては収穫皆無のこともあった。この奇妙な不稔現象の原因については従来は全く不明で、微量要素の欠乏説などが説かれていたが、氏はこの発現機構を1956年以降栄養生理学的、気象学的、細胞学的、作物学のおよび害虫、微量要素等のあらゆる分野から攻究して、予想されていなかった新事実を発見した。すなわち冬作物であり低温には極めて強いはずの小麦が、出穂時においては低温(0°C以上)によって葯の生理機能が害され、ために花粉は栄養障害を起し徐々に未熟花粉や退化花粉になる。従って胚のうは正常であっても受粉受精は不完全となる。以上の事柄は次のような新知見を与えるものである。生物は一般にある時期(または年代)に障害に対する抵抗力が弱まるということが知られているが、低温に育った小麦においても出穂時には、予測されなかった0°C以上の低温によって不稔性障害を起す。そしてさらにこの障害の発現機構についてみると、今まで稲や夏作物にみられる多くの研究で明らかにされた冷害は花粉母細胞分裂期(出穂10日前)に際し、染色体の異常分裂やタベト細胞の異常肥大によって不完全花粉となるためであることが判っているが、小麦の冷害の発現機構はそれらと全く異っているのである。このような冷害の発現機構は未発見のめずらしいものであることが、氏の細胞学的研究によって判明した。さらにこれを人為的環境(冷凍器)のもとで実験的に立証し、これをもとにして被害に対する理論値計算を行ない、それが現地の実際の被害程度によくあてはまることを明らかにした。この試みは作物界ではじめてのものである。今まで他の研究

者が発表した不稔現象のあるもの(微量要素欠乏と思われていたもの)や日本各地にみられる今まで不明だった冷害現象はこの戸田説によって完全に説明できることが明らかになった。論文はさらに不稔現象の防除対策、他の分野に対する種々の示唆等について述べている。各章のタイトルは次のようである。

- 第1章 麦類不稔現象に関する研究史
- 第2章 長野県に発生した小麦不稔現象の発生様相
- 第3章 本不稔現象の発生機構推定までの研究経過
- 第4章 本不稔現象の発生機構としての病虫説、微量要素説、栄養生理説の検討
- 第5章 本不稔現象と胚のうとの関係についての検討
- 第6章 本不稔現象と花粉および葯との関係についての検討
- 第7章 本不稔現象の発生機構としての気象説の検討
- 第8章 本不稔現象の発生機構の実験的証明
- 第9章 本不稔現象による被害率の予測について
- 第10章 本不稔現象と他の研究者によって報告された不稔現象との関係
- 第11章 本不稔による被害の軽減法
- 第12章 総合考察および結論


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金  
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

## 一般教養課程は絶対に手放してはならない

香山清和

11月23日の千曲会総会に於て上小支会の緊急動議によって一般教養課程統合反対決議が万場一致で可決され、これを実行に移す組織結成は執行部一任となった。これによって千曲会の進むべき方向は明確に決定し矢は弦を離れたのである。そして12月12日には母袋氏、和田氏、箱山氏、浅野氏と僕が信大本部を訪れ折悪しく学長が留守だったので事務局長に反対決議文を手交し更に松本市長を訪問し協力を依頼した。又母袋県議は12月県会に於てこの問題を掲げて県知事に質問し12月21日には上田市議会に於て統合反対の意見書が議決され反対運動は一步を踏み出したのである。

一般教養課程の統合問題は代々の学長によって一応は取上げられたが困難な内部事情を知っているのでは何ぞ進展を見なかったのである。然るに三村現学長はこれを知るや知らずや如何なる意図があつてか、これが解決に積極性を示した。然し如何に学長が強行せんとしても簡単に実現出来るものではない。学長の懸命の努力にも拘らず意見の一致を見るに至らなかった。則ち統合賛成は医学部と農学部で他の四学部は反対又は未定であった。それが昨年後半に至り教育学部の定員減少と文理学部の改組拡充問題が起り両学部は統合賛成に賛同した。学長はこれを絶好の機会としこれとからませて統合問題を一挙に強行解決しようとした。

今までと違い非常に緊迫した危険な状態に突入した訳である。この時に多少の違いはあるが千曲会が反対の意志を表明したのは最も時宜を得た処置と云わねばならぬ。

第二次大戦後学制改革が行われ信州大学が誕生せんとした時、長い歴史と伝統ある母校は単科独立の猛運動を行ったのである(この当時僕は満洲にいたので伝え聞いた話である)が、もう一步という処で挫折しその特色と自主運営を認める意味で一般教養課程をも併設するという文部省の条件で信州大学に加つたのである。そして世にも珍しいタコ足大学の信州大学が誕生したのである。その参加の条件であり既得権である教養課程をそう簡単に手放せるものではない。それを統合せよというのは自体無理というものである。教養を放棄した後、大学の将来を論じようとするような人達は外柵を埋められた大阪城で戦わんとするに等しい。所有する物は絶対に手放してはならない。取られた丈で得る物は何も無いという結果にならないと誰が保証するか。

教養を一個所に統合すると内容が向上するという。若し現在の文理学部全体がその仕事だけに専念する(こんな事はあり得ない事である。)ならば或はそう云えるかも知れないが(それでもなお僕は反対であるが)聞く処によれば今回の改組案で二学部を設置しようとしている。然らば一般教養には一人の教官もよこせまい。否むし他から補充を必要とする位であろう。すると新しく作られる教養部は文理学部へ抜かれた精だけの片手間仕事になり現在よりも貧弱なものになる。然かも一般教養はややもすれば高校と大学の中間位に考えられ易くよい教官は尻込みするであろう。とても誇り高き教養部にはなれそうもない。

教養統合は学生の通学を著しく不便にする。4ヶ年の学生生活を松本と上田の二ヶ所でしなければならない。県外から来た学生にはそれ程ではないが半数以上を占める県内出身学生には著しく不便である。全学生が多かれ少なかれ、ある期

間の寮生活を余儀なくされる事になる。誰かが守山時代に上田松本間の距離など問題でないと云ったが現実には、山にはさまれ時としては東京へ行くより時間がかかり、乗換えて行く不便をどうする事も出来ない。

通学に不便であり然かも内容は充実しない教養統合を選ぶ必要が何処にあるのだろうか?

本学部の発展と悲願は単科独立にある。教養を手放したらそれは絶望となる。中南信は長野に県庁がある代償として多くの利益を得ている。東信は長野に県庁があるために損を市として。更に長野市は政治都市として、松本市は新産業都市として発展しつつある。これに対し小泉学部長等によって東信学園都市が提唱され県もこれを耳を傾け新年度に調査費を計上し学校招致に乗出そうとしている。その際にその中心となるべき本学部がその根(教養課程)を失つてはその芽を摘み取るようなものである。

教養を統合しても文部省の云うタコ足大学の解消にはならない。これを解決するには各学部を一ヶ所に統合しなければならぬ。然しこれは絶対に不可能である。これ又バラバラになったものを一大学とした事に無理がある。一県(人口200万人以下)一大学というが、そうでない例は多数あり又最近新しく単科独立したり独立しようとしているものもある。東京と京都は単科独立させ、上田をそうしなかったのも不公平である。特色のある大学は独立を認めると文部省は云っているという。母校はそれに最も適合しているではないか。学制改革当時秋田鉱山専門学校と共にその候補に上つたと聞いている。

一般教養を始め1~1.5年やり後は専門学科のみをやる方法にも問題がある。専門学科と一般教養をある程度混合してやる事も必要であろう。一般教養と云つても政治や文科を志す者と工業や農業を望む者とは相当内容を変更する必要がある。更に修士課程が設置され近き将来、博士課程が設置されようとする本学部一般教養がない事は非常に不便であると思う。目的大学はいけないという人があるが法文系はさう知らず技術系、特に教育、次で医学、工学、農学、繊維学等が多少その傾向があるのは已むを得ないであろう。

上田が教養統合に参加しなければ教養部は不成立になるとしてその責任を本学部に戻せんとする向があると聞くが、入りたくない処は除いて、統合して利益になり統合したい学部丈で統合すればよいではないか。統合によって最も不利になり不便になるのが本学部である。本学部にとっては百害あって一利なしという訳である。本学部が抜けても統合の規模として決して小さい事はない。もっと小さい処はいくちもある。大きいばかりがよいのではない。内容が充実している事が必要である。他学部の利益のために本学部の犠牲にされてはたまらない。又本学部のように縦一本とする方法と横一まとめにする方法とどちらがよいかは夫々利害得失があると思う。これは大学ではないので少し違つて工業専門学校が設立されたのも横線の欠点を認めた結果ではないのか。本学部は縦線を充実する事がその特徴を最も発揮出来ると確信している。

大学の将来を論ずる場合に自我を離れて公平に考えるべきである事は論を待たない。然し人間が生物である以上完全に自我を捨てられるだろうか？ 先ず母校及び上田の発展を願うのは当然である。米国と日本との利益が相反する時は日本人である限り日本の利益に従うであろう。然しそれだけしか考えないと云うのではいけない。同時に大局的から理想的な信州大学否日本の大学の姿を考えるのが好ましい形ではなからうか。私心はなく公平に云っているという衣の陰から私心の罅がチラチラ見える意見をよく見受けるのは苦々しい限りである。人にはそれぞれの立場があり知らず知らずその立場の影響を受けるものである。又地図の上に線を引いて決めたような現実を無視した理想論も不可である。学生の意見には私心のない場合が多いが現実を無視する事に難点がある。自分を考え母校に思を致し現状を直視し然る後大局的の立場から考え得た最大公約数が最も理想の姿ではなからうか。何事をするにも絶対によいという方法はなく必ず欠点を伴うものである。事の良否はあらゆる角度から検討して然る後決定すべきであり、又その当時は可と思っても時期が経過すれば否であるかも知れない。他人の意見を直ちに門外漢の見当違いときめつけるのは早計である。立場を変えたり時が経過すればそう云う自身の考えが見当違いになるかも知れない。又門外漢の方がより正しい考えである事さえよくある事である。

○  
専門学科と一般教養学科(基礎学科)の何れを重視するにも問題がある。一般教養が不十分であれば完全な根は生えず大きな開花は望まれない。とは云え教養学科ばかりを重視しては根ばかり太くなって花は咲かないでしまう。都市大学と地方大学とはどんなに努力しても同じようにはならない。これは宿命的なものである。都市大学と同じような事をしていたらアブハチ取らずになるであろう。地方大学は基礎学科のみを追わず専門学科に於て特色を発揮すべきである。独立した一般教養課程を持つ事はこの点に於ても重要な意味を持つと確信している。

○  
一般に若い人達は変化・現状打破を喜ぶ。従って現状維持を主張する者は頑迷固陋と目され改革派は新進気鋭と見なされ、統合反対派は前者、統合派は後者と考えられ易い。誰も頑迷固陋と見られたくないで統合反対派は沈黙し統合賛成者の声のみ大きく聞え統合賛成者が非常に多くあるように見られ勝ちである。僕は頑迷固陋と云われても敢て意に介さないがそれでも他の意見に決して耳を貸さない訳ではない。統

合賛成の人々の意見を聞き我々の考えも述べて見たい。勿論相手を説得しようなどと云う大それた意図は持っていないし又意見の一致を見る事も期待してはいない。それでも話し合えばお互いに得る処が大いにあるだろう。僕はそれを切に望んでいる。

僕は中国で技術留用され28年に上海から帰国した者である。従って中共の中で生活し共産主義の学習も受けた。その結果は共産主義者にはなれなかったが中国人を同胞以上に親近感を覚え中共の偉大さに大いなる感銘を受けた。こういう程度の理解でも大いに役立つと思っている。統合賛成の人からの話もその程度に役立つ事を期待している。

○  
僕は海外からの引揚が遅れたので老齢と中共帰りが重なって今以て生活が安定せず時々母校同窓諸公にお手数をかけている。

その自分の頭の蠅も穢に追えない僕が一支にもならない母校の教養統合反対などに一生懸命になっている。全く不可怪しい話であると思う。然しこの原因は僕の物好きな性格から来るものと、もう一つ母校に親しい者が多くいるせいにもよるのである。僕は代々上田の生れで渡満する前は母校に勤め小泉学部長、山口千曲会理事長と上田中学も母校も殆んど同年卒業、荻原前、山口現理事長と一緒に母校役員という因果関係があり親密であったせいによるものと思う。

そんな関係で母校外に居ても内部事情はよく知っている積りであるが矢張り当事者でないから或は誤りがあるかも知れないし又参考文献などなく飽く迄私見と信念で書いたものであるから妥当でないものがあるのを保し難い。その結果悪影響を生ずる事があってもそれは僕の責任であって千曲会や母校には全く無関係である事ははっきり申し上げて置く。

○  
今や千曲会は一般教養課程統合反対に立上ったのである。その前途は決して楽観を許せない。僕は野にいてどんな事でも自由に出来る立場を100%利用して母校及び母校付近の千曲会同志と手を携え目的貫達に向って激しい斗争を展開する決意である。僕は既に年齢60を越え野心も栄達も延ばすようにも延ばしようがない。せめて母校発展の前駆をなす教養統合反対に余生を賭けたい決意である。

然しこの事は一部の人が多めに努力しても駄目である。背後に千曲会員5000の鉄の団結と支持がある事を絶対の条件とする。各位のご協力を切に希望する次第である。

**財団法人上田繊維科振興会研究助成金交付希望者募集**

母校50周年記念事業として発足した上田繊維科学振興会(以下振興会という)は振興会寄附行為第4条第1項に基づいて研究助成金交付希望者を次の要領で募集する。

1, 応募者は4月10日までに振興会理事会あて、助成金交付申請書に研究課題、目的、計画概要、研究経費を記載して提出しなければならない。

2, 応募者は個人または協同研究としある程度の成果を得ているものとする。

3, 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。

4, 研究助成金は5月末までに交付する。

5, 研究の助成を受けたものは助成金の交付決定してから1年を経過し6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。

6, 研究助成の成果概要は千曲会誌上に公表する。

7, 申請様式は本会あて申し込めば送附する。特に学内外の若い層の研究者も奮って応募されるよう期待する。

昭和40年2月1日

財団法人上田繊維科学振興会理事長 柳沢延房

### 上田市も信大一般教養課程松本統合に反対

千曲会は昨秋「信州大学の一般教養課程を松本地区一カ所に統合する」という案に対し本紙別記のように反対決議を行ったが、これと相呼応して上田市議会は去る12月21日、慎重に討議を重ねた上、下記のような意見書の決議を行ない、文部大臣、信大学長、繊維学部長にそれぞれ文書を提出した。

#### 信州大学繊維学部の教養課程引上げ反対 に関する意見書

文部省におかれては、常に教育行政にご配慮をいただき感謝にたえません。実はこのたび本市に設置されております信州大学繊維学部の教養課程を含め、現信州大学の一般教養課程を教育学部の定員減少と文理学部の改組を解決する手段として松本市に統合するということが仄聞いたしました。

このことは繊維学部の信州大学加入の歴史的事実を無視し、特質ある繊維学部の将来の発展と本市のもつ学園都市建設の施策に反するので、上田市にとっては重大な問題であります。

ここに別紙昭和24年5月17日衆議院文部委員会、同月19日衆議院本会議の議事録抜粋を付し、地方自治法

第99条2項の規定により信州大学繊維学部の教養課程引上げ反対の意見書を提出いたします。

昭和39年12月21日

上田市議会議長 石井 泉

(提出議員 萩原正治、田口玲、清水清)

註 上田繊維専門学校が大学に昇格の場合、時の衆議院議員小林運美氏(糸16)などのご尽力により、もう一步で単科独立を認められようとしたが、人口300万以下の場合、一県一大学にする、というGHQの強い主張のため遂にいれられず学部として信大に参加したが、その折の議事録中に(1)大学設置委員会の大臣に対する答申には「実情に応じ、一般教養課程をも上田において行うことを認める」とあり(2)文部委員会の記録には「秋田鉄山と上田繊維の二大学には実情から見て一般教養をおき、より以上の自主性と特殊性をもたせてほしい」とあり、さらに、(3)文部大臣の答弁には「上田繊維は信州大学に参加するが、優秀でかつ特殊性が多いので文部省は一般教養を上田におくことを認め、特殊性はいよいよこれを發揮するよう努力する」と記されている。これを歴史的事実という。(田口玲)

### 「信州大学の一般教養課程を松本地区一カ所に 統合する計画案」に対する千曲会の反対決議

現在信州大学では、松本、長野および上田においてある「一般教養課程を松本地区一カ所に統合」しようとする計画が強引に進められている(本誌香山氏論議参照)が、昨秋11月23日の千曲会総会で上小支会から緊急動議が提出され、これについて本会は慎重に討議を行なったが、その結果、学校としてはまだ結論が出ていない時ではあるが、千曲会としては「この計画が実施されると、著しく上田の大学の特色が失われるし、新しい学科の増設や、大学院の設置をみたばかりの、大改新の途上にある母校にとってまことに容認しがたい重大な問題で、上田から一般教養を引上げられることは絶対に反対であるとし、千曲会総会の名において下記のような決議を行なった。なおこの決議書はその後、信州大学長と繊維学部長に提出し善処方を要望した。このため副理事長母袋忠右衛門、和田晋、箱山佳夫、香山清和、浅野清志の各氏同窓

生幹部が松本に出張、三村学長不在のため杉田事務局長に面会決議文を提出した。つづいて松本市長その他の関係者へも申し入れをした。

#### 決 議

現在信州大学の一般教養課程を松本地区一カ所に統合する計画が進められているが、これは母校にとっては、従来の歴史的事実を無視するものであり、繊維産業教育の面において、また母校の将来にとり著しく不利を招くことになるので絶対に反対である。

以上決議する。

昭和39年11月23日

社団法人千曲会総会

特許・実用新案・意匠・商標  
出願・訴訟・鑑定

## 浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20  
堤第一ビル四階  
東京(591)0764・0765

弁理士 浜 香 三  
弁護士 中 猪 之 助  
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

海外に飛躍する

## 北野建設株式会社

取締役社長 北野次登

長野市県町524  
東京都中央区銀座1の5北野ビル  
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル  
松本・高田・ジャカルタ

### 日本学術会議第7期会員の選挙について

日本学術会議の第7期会員の選挙が今年11月に行われることになりました。そこで、先般有権者の認定発表の結果を、学術会議中央管理会で調べましたところ、従来、有権者であった上田の卒業生が約100名不認定となっております。しかし、一度不認定となりまして、下記により登録用カードを請求し再登録をしていただければ、第2次資格審査によって有資格者となることが出来ますので、甚だお手数でも是非至急手続きをおとり下さるようお願いいたします。

記

登録用カードの請求場所 東京都台東区上野公園  
日本学術会議中央選挙管理会

登録カード締切期日 昭和40年3月31日

次に、最近卒業された千曲会員の方で下記に該当する場合には、上に記した事項に基づいて、お手数でも至急登録用カードを請求下さいまして、有権者となっていただきたく、お願いいたします。

有権者の資格についての事項の要点

#### 1. 学歴または研究歴

- (1) 新制大学（短大を除く）または旧制大学卒業2年以上の者

- (2) 短期大学、もしくは高等専門学校、専門学校等を卒業後4年以上の者

- (3) その他研究歴5年以上の者

(注) ここでいう卒業後2年、4年、5年の算定はきたる11月25日現在を基準とする。

#### 2. 研究論文または業績報告

研究論文、業績報告（口頭発表の場合でも、その要旨が印刷になっていれば資格があります）

また、次の者は、その研究論文または業績報告の発表が9ヶ年を越えていても差しつかえないことになっています。

- (1) 国公私立大学（短大を含む）に勤務する講師以上の教職にある者 (2)省略 (3) 国公私立研究所等の研究機関に研究員として勤務している者 (4) 博士の学位を有ししめるべき学会に所属する者

尚、既に、学術会議中央選挙管理会より、登録カードを出すように書類がお手許に届いている方がかなりあると思えます。この方は お忘れなく3月31日までに必要事項をお記入下さいましてお提出をお願いいたします。

不明の点や疑問のことは、千曲会本部、事務局にお問い合わせ下さいようお願いいたします。

### 同期生回想

京都府伏見中小企業労働相談所長 出野正雄

人間の生涯には妙なことがあるものである。

池内真吾（蚤19）と宮坂取（糸18）が私の同期生であると申せば、何を世迷ごとを申すかと仰せられる向があるろう。嘘でも何でもない。本当のことである。

話は少し古くなるが、終戦まで満洲国には高等文官の最高研修機関として大同学院というのがあった。池内真吾、上兼之右、宮坂取の3君と共に私はその学生として猛烈に勉強をしたことがあった。同期生というのはそういう因縁である。信州を去って30年に近い年月が流れたので、今は昔のお話になるのであるが、いささかの因縁ばなしを書いてみようと思う。

上兼は多分群馬県に健在の筈であるから私の無沙汰詫びると共に、彼の筆不精を厳く責めておく程度にして、以下は故人である池内と宮坂のことを綴ってみたい。

池内は満洲国が杵蚕糸の積極的な増産をするにあたり、その基礎的な研究のための要員として国の試験場に招かれて海を渡った。そのすぐれた学識、経験、仕事熱心は誰にも尊敬されたし、ゆたかな人間性は誰からも愛されたのであった。また数多い珠玉の業績は高く評価され、貴重な報告として今もなお燦然と輝いている筈である。

戦がはげしくなるにつれ、在満在郷軍人は次々と召されて戦場に赴いた。陸軍中尉池内もその例外ではなかった。池内がいつどこでどういう風に戦ったかは私は知らないが終戦と同時に抑留されて3年後郷里に帰り、暫く土地の中学につとめ、後、新潟県立安塚高等学校に転じ、間もなく脊髄性白血病で昭和27年8月1日に不帰の人となったということである。

宮坂も亦、単身玄海を越えて鴨緑江のほとり安東で教職にあったが、終戦と共に赤軍の進駐、中共の革命という言語に絶する混乱のさなかに病魔に冒（おか）され、隣人のあたたかい看護はあったにしても、生命財産をまもって呉れる筈の国家が崩壊して掠奪暴行が当然の如く行われ、無頼の徒が昼となく夜となく横行している異国の土地で、十分に医療が受けられないままに悲しくも逝去したのである。

宮坂の学問や人格についてはここに詳しく述べる必要はない。

い。その立派さはどなたもご承知の通りである。私は安東のさる寺院での告別式には同期の故をもつて香を手向けその冥福を祈ったことであった。当時安東に居られた先輩湯川秀夫松井憲二らの方々が参列されたことは申すまでもない。

話は多少前後するが昭和26年秋の彼岸の中日に洛北花園の妙心寺に大同学院の同窓の手で物故した同窓、関係者376柱のために大同地蔵を建立しその開眼供養をしたのであったが今夏は8月9日を期して全国から同窓、遺族、有縁者200余名が参集、終戦20年の回想も新にその慰霊祭を行った。

当日の祭文は冒頭にこう述べている。

風雲暗き辺境僻陬の地に挺身し困憊に殉職したものあり。或は病軀を押して激務に倒れた先輩あり。戦時中庶召して戦場の露と消えた同志も少からず、又終戦時、地方行政の第一線に戦死殉職をとげた同窓あり。ソ連、中共に抑留されて朔比の異境に病没した多くの友あり。中には生死不明を伝えられつつ後日死亡宣告された同志もある。又戦後内地に引揚げ第2の人生を踏み出した後不幸にして病没された方々も含まれている――

池内と宮坂も亦当然この大同地蔵に合祀されているのである。さきの慰霊祭にその世話人の一人として私は故人のご遺族に案内状を差上げ当日の参列を乞うた。松本に在住される池内未亡人は丁重な書状を寄せて欠席されたが宮坂の遺児卓君は外忙のところわざわざ東京から参列された。

大同地蔵は洛北花園妙心寺慈雲院の梅樹のもとにあつて、ここに池内、宮坂の霊が永遠に眠っている。どうか旧知の方々は折あらば是非ここを訪れて立派であった故人を偲びその冥福を祈ってほしいものであると思う。

なお池内未亡人は現在松本に在住せられ松本松南高校に勤務されている。遺児は3人。北大大学院在学の長男は札幌にあり、長女は信大教育学部、次女は中学にいつれも在学宮坂の遺児は松戸市に嫁いだ長女と東京の商社に勤務の長男の2人。両家とも遺児はそれぞれ立派に成人され、将来の方向もほぼ決定し、いつれも明るく健康である。終りにこの拙文を起草するにあたり湯川秀夫氏、山口定次郎先生、児玉正志君を煩して故人のことにつき、或は遺族のご消息につきお知らせを頂くなど格別のお手数を煩したので感謝の意味で特記して置きたいと思う。

### 支 会 だ よ り

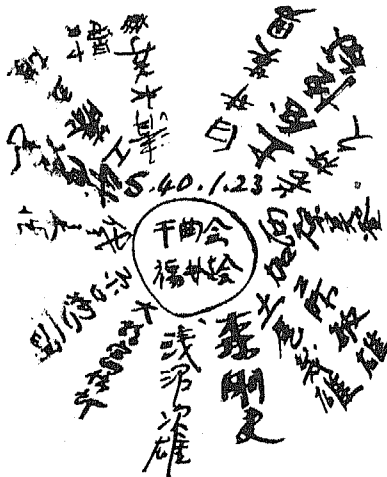
#### 福井支会総会に出席して

夏見の候1月23日福井市内魚善において、福井支会総会が3年振りに開催され支会初まって以来の盛大な会となった。

森剛夫支会長の挨拶、原口惣一郎幹事長より事務報告があり、本部長上屋理事より昨夜の近況、火災復興資金の募集状況等につき報告し、議事に入り会費は支会を通じ納入し、支会総会は年2回開催する等を決めた。

続いて懇親会にうつり会員の消息、上田の思い出話等に花が咲き宴は盛会を極め、福井支会の万歳を大橋富次郎先輩の音頭で声高らかに唱和して散会した。

特に若手会員の出席が多く、私も20年振りの福井で旧知の人々と楽しく談合できて有意義であった。



出席者は工藤五男(蚕36)松文産業KK、森剛夫(糸21)福井県農業協同組合中央会営農部長、西原義登(糸24)福井県販賣購買農協連印刷工場長、原口惣一郎(糸25)福井県南越事務所産業観光課長、若林久(学糸10)神榮生系KK、大橋富次郎(紡7)東洋サイジングKK監

査役、佐々木浩(紡24)大和紡績KK福井工場、加藤敏雄(紡25)福井県庁繊維課、清水孝晏(紡26)染色加工業自営、浅沼次雄(学紡2)帝人KK北陸営業所竹内次志(学紡3)福井県繊維工業試験場、土屋恒敏(学化1)明成化学工業KK、白井英男(学化4)帝人KK北陸営業所、土屋幾雄(紡26)信大繊維学部紡織工学科) (土屋記)

#### 熊 本 支 会 だ よ り

熊本支会は旧暦26日支会総会を開催、会する会員13名が年末多忙を繰り合せ参集、久しぶりに支会の気勢を挙げた。当日の出席者は(敬称略)支会長深迫明(蚕16)熊本県蚕糸課長、石谷雄一(蚕38)九州農政局構造改善部振興第1課、宮村秀夫(学織10)同上勤務、中岡保男(農1)熊本県蚕業試験場、林田義雄(糸22)熊本県林務部林産課、原田正彬(糸22)コーナー写真材料店(自営)、田代教(糸27)鐘ヶ淵蚕糸KK菊地工場、高尾三代治(糸27)酒六KK中佐工場、田山正記(糸30)熊本県多良木高等学校、三井滋(糸38)神戸生糸KK肥后工場、野崎昭嗣(化6)日本化学繊維検査協会九州検査所、飯島千春(化7)興国人絹パルプKK入代工場、浅山茂樹(紡17)熊本女子高等学校。(林田記)

#### 蚕 緑 会 (蚕36回) 新 年 会 開 かる

去る1月5日巳年の初頭を飾り、蚕緑会新年会を上田駅前の新装なった若菜館にて催した。蚕緑会新年会も回を重ねること16回、昭和24年卒業後1回も欠かすことなく連続として今日に及んでいることは、わが蚕緑会のまとまりの良さを示すものとして千曲会のなかでもユニークの存在であると同時に自負の念を抱くものである。

さて、集った面々は16回連続出席者(皆勤賞)の千曲社沼田出張所長湯原理三君、同じく千曲社上田出張所長高木精一君、坂城高校教諭長谷川良一君、長野蚕

業試験場技官田中茂男君と私の5名。皆勤組の群馬勢数名と関先生が欠席されたことは何んとしても淋しい限りであったが、少勢たりと雖も斗胆なお辭せずの大酒豪家揃い。美酒(?)に没る程に話題は豊富。業界、学界の現状論に甲論乙駁さては遠く16年前の学生生活の悪態に花が咲き、古傷を今さらあたためるのも感無量の態。帰るところワイフ論から子供の教育論に話が落ちるのも年ばかりおわれぬ中年男の悲哀か?。クラスメートの動静には皆気を配り、傑物の輩出を心より望むや切である。

とまれ卒業、後16年ともなれば業界にしろ学界にしろ中堅幹部であることは間違いない事実であり、これから各自の力量を十二分に発揮させ、その名声をはくする時でもあり、またその機会を得ているものと信じる。油のぬりきりつつある蚕緑会各位の今後の活躍を大いに期待し、次回の定例新年会に再びまみえることを誓いつつ散会した。(押金記)

#### 堀田助次郎氏ブラジル便り

萩原研究室におった堀田助次郎氏(学紡12)は1月18日無事就職地ブラジルに極めて元気で上陸したとブラ招会社長天野賢治氏から又同窓谷内利男氏(糸1)から寄せ書き便りがあった。堀田君も萩原教授に大変お世話になった。暑さに負けず元気で頑張ると添え書きが寄せられた切に活躍成功を祈る。

#### 千 曲 会 費 完 納 者

会費通算40回完納者は会費免除されることになっているが、今回次の会員は内規に該当し会費免除となった。

本会上昇発展のため多大のご協力を感謝いたします。

- 久保田正樹(蚕3回・上小支会)
- 山口定次郎(蚕12回・上小支会)
- 工藤 見吉(蚕17回・愛媛支会)
- 香山 清和(紡3回・上小支会)

### 会 費 を 納 め て 下 さ い

本会活動が円滑活潑に出来ますよう会費を納めて下さい。会費は次の方法で納めて下さい。

- なるべく支会を通じて納入して下さい。この場合会費の3割は支会に交付します。
- 支会より遠隔、連絡のない場合は直接本会に納めて下さい。

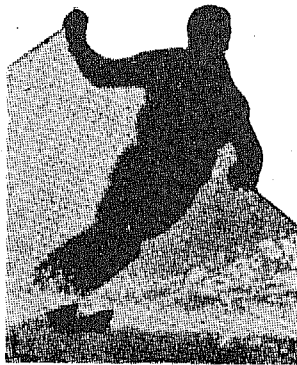
- 振替用紙を利用して下さい。
- 昭和25年にさかのぼって未納金を納入する方は分納でも結構です。なおさきの定期総会で昭和40年度分から(40年4月)年額会費は500円になりましたからご了承下さい。
- 会費通算40回納入会員は会費は免除されます。この場合千曲会報に芳名は掲載します。

年度別	25~31 各年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年
会 費	200円	300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円	500円	500円
交 付 金	60円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	150円	150円

### 会 員 動 静

新名簿頁	会員名	学科名	支会名	勤 務 先	住 所
33	岩瀬 義夫	蚕 8	愛 知	鋤柄農機KK(岡崎市矢作町)	
34	天野 末治	蚕 9	愛 知	弁護士(岡崎市伊賀町南郷中50電2109)	岡崎市(岩津島区内西阿知和町) 電 124
34	二木 猪一	蚕 8	安 筑	長野県東筑摩郡本郷村浅間 176	
37	池田正五郎	学蚕 11	北 海 道	勤前のとおり	札幌市元町同地28、12
61	菊地 六郎	蚕 27	山 陽	郡是製糸KK津山蚕種製造所 (岡山県津山市二宮1920)	
62	森本 彰	蚕 27	安 筑	農林省蚕糸試験場中部支場蚕糸研究室長 (松本市四ツ谷)	
65	大久保孝一	蚕 29	安 筑	セコニック精機KK常務取締役工場長 (塩尻市大字大小屋145)	塩尻市大字大門字原1724-4 図書館前セコニック社宅
86	小林 俊徳	学蚕 1	埼 玉	(旧姓欠島)埼玉県本庄市東中学校	埼玉県上里村村営住宅
92	栗林 茂治	学蚕 5	群 馬	前のとおり	前橋市南橋町11市営住宅Pの441
92	鈴木 昭	学蚕 5	東 京	日星産業KK東京支店(東京都中央区日本橋室町3ノ3)	茨城県土浦市下田町2704
96	小泉 勝夫	学蚕 7	神 奈 川	神奈川県蚕糸試験場(神奈川県高座郡海老名町中新田)	
106	養場製姿雄	農 2	北 信	長野県庁農政部農政課主任	
107	清水 伝二	農 2	北 信	長野県庁土木部河川課主任	
108	深井 真澄	農 2	北 信	長野県庁農政部農政課構造改善課副主管	
112	斎藤 浩	農 4	北 信	長野県庁商工部振興課検査主事	
148	赤尾 文顕	糸 24	山 陽	広島県地方労働委員会	
149	古田 力	糸 24	東 京	片倉工業KK製糸部製糸課長(東京都中央区京橋3の2片倉会館)	
166	大原不二人	糸 35	更 埴	長野県屋代高等学校(更埴市屋代)	更埴市屋代横町県住6号
201	浅山 茂樹	紡 17	熊 本	熊本女子高等学校	
205	貞明 聡夫	紡 20	山 陽	岡山県工業試験場児島繊維指導所長(児島市下之町和井田1597)	

## カライズ"カラー"カフス



ワイシャツ地そのままのソフトな肌ざわりに糊の効いたシャープな切れ味を添えたものが、カノライズカラー・カフスの特徴です

### 高原シャツ

日本工業規格表示許可工場

## 高原シャツ株式会社

更 埴 市 屋 代

#### 編集室より

昨秋開催の本会総会の決議の処理を巡って香山清和理事から母校の一般教養部の統合反対の意見が解説され、もやもやしていたものがはっきりした。信大の最高審議機関の会合においては長い期間の研究で母校学部の進む方向は決まっていると思う。学園都市として全国最適地東信地区に所在する母校は大地に根を張って立派な大学としてその特色を発揮して時代の歩みに先駆して大学設置の期待に答えられるよう大いなる発展を念願するものである。

編集委員 小林尚一、竹田 寛、石川 博、一之瀬匡興、松沢秀二、小笠原真次、武井隆三、篠原房江、金井 清、白井要範



## オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

## オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美